自著を語る

このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

視覚実験研究ガイドブック

市原　茂

最近の視覚実験では，実験の実施や実験データの解析にコンピュータは欠かせない道具になっています。また，視覚研究で扱うテーマは非常に広く，視覚実験では様々な視覚刺激が用いられ，それらを提示する方法や，反応の測定方法には伝統的な手法や最近発達してきた手法を含めて様々なものがあります。

本書は，これから視覚実験を行おうとする方々に直接役立つような実践的な研究のノウハウを解説したものです。その内容は，実験計画法，心理物理学的測定法，実験環境と装置，様々な視覚刺激の作成・提示法，視覚実験制御用ソフトウェア，反応時間測定法，生体情報・行動計測法，モデリングとシミュレーションなどの解説に加えて，視覚実験の応用事例の紹介，研究成果のまとめ方や国内外での発表の仕方，特許の取得や研究倫理の問題など，実験の計画から成果の発表まで，やらなくてはならないものがすべて含まれているといっても過言ではないものといえます。視覚研究の初学者からベテランまで，多くの方々に利用していただけたら幸いです。

編著　市原茂・
　　阿久津洋巳・石口彰
発行　朝倉書店
A5判／320頁
定価　本体6,400円＋税
発行年月　2017年6月

いちはら　しげる
首都大学東京名誉教授。専門は知覚心理学。著書はほかに『感覚知覚心理学（朝倉心理学講座6）』（分担執筆，朝倉書店），『感覚・知覚・認知の基礎』（分担執筆，オーム社），『視覚系の空間的特性（眼科学大系6）』（分担執筆，中山書店），『新編　色彩科学ハンドブック』（分担執筆，東京大学出版会）など。

心理学からみた食べる行動
基礎から臨床までを科学する

青山謙二郎

どうして食べ過ぎてしまうのだろうか。なぜ高級レストランの料理はおいしいのだろうか。食行動の異常はなぜ生じるのだろうか。本書ではこれらの食行動の諸問題における「心理学的なメカニズム」を，専門家以外の人にも分かるよう解説しています。

ただし，本書の狙いは心理的要因に関する知見を網羅的に解説することではありません。むしろ，それらの知見を導き出したプロセスの理解を重視しています。そのため，本書では解説するトピックを絞り込み，実験や研究の方法やデータを具体的に紹介することに紙数をさきました。これが，本書の最大の特徴です。

第Ⅰ部は基礎的な研究を紹介しています。脳の働きや学習の要因，社会的な影響，さらには食品に関する消費者行動研究まで幅広い話題を扱いました。第Ⅱ部は臨床に関する研究を紹介しています。科学的な根拠のある心理学的介入法を解説するだけでなく，とくに行動分析学に基づく新しい取り組みを積極的に紹介しました。意欲的な研究がまさに進行していくさまを感じていただけるでしょう。

編著　青山謙二郎・武藤崇
発行　北大路書房
A5判／264頁
定価　本体2,500円＋税
発行年月　2017年6月

あおやま　けんじろう
同志社大学心理学部教授。専門は食行動の心理学・学習心理学・行動分析学。著書はほかに『食べる：食べたくなる心のしくみ（行動科学ブックレット8）』（二瓶社），『セルフ・コントロールの心理学：自己制御の基礎と教育・医療・矯正への応用』（分担執筆，北大路書房）など。